

平成三十年度入学者選抜試験  
個別学力試験問題（前期日程）

国

語

注  
意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、問い合わせに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(長谷川眞理子「ヒトの進化と現代社会」による。なお、本文の一部を省略した。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(注) 行動生態学——生物の行動や生態について進化という観点から考察しようとする生物学の一分野。

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「母親が一人で子育てするなど無理な動物」だということについて、筆者がそのように考える理由を具体的に述べよ。

問三 傍線部B「昔のようなネットワーク」とはどのようなネットワークか、本文中の語句を用いて具体的に述べよ。

問四 傍線部C「私たち自身が生み出した「文化的環境」とはどのような環境か、本文中の語句を用いて述べよ。

問五 筆者は「よりよい社会」を作るためにどのようなことが必要だと考えているか。ヒトの子育てを例にあげながら説明せよ。

二

次の文章を読んで、問い合わせに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の  
関係により、公開しません。)

(加藤重広『その言い方が人を怒らせる——ことばの危機管理術』による。)

問 「空気を読む」ことについてあなたはどのように考えるか。文章の内容を踏まえつつ、具体例や根拠を示しながら自分の考えを述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること。)

(下書き用)

A large rectangular frame with a thick black border. Inside, there are five vertical dashed lines that divide the space into six equal-width columns. This layout is designed for practicing handwriting or calligraphy.

次の文章を読んで、問い合わせよ。

東へ行く士の若きあり。都に上る士の老いたるあり。各々駅路の馬に乗りて行き交ふに、若きが馬の馬追ひ、老いたるが馬の馬追ひに、残りの道の替へごと定めて、若きに向かひて、「馬を替へ侍れば、乗り替へさせ給へ」と言へば、やがて降りぬ。老いたるが馬の馬追ひもしかいふに、「いな、我は急ぎの道なり。ためらふな」とて、なほ追はす。若きがこれを見て、「おのれを降ろして、一言もかけず行くは、人笑へにせんとか。いでもの知らせん」とて、鎧を取り、「老いたる止まれ」と呼ぶ。老いたるかへり見て降りて待つさま、事もなげなり。若き走り寄りて、「刀を抜け。打ち合はせて死なん」と言ふ。老いたるつくづく見て、「A いみじのありさまや」。これにつきてもの言はん。近くと言ふに、勢ひさめて、「B とく聞かん」といふ。老いたるほほゑみて、「さればとよ。おのれも子持ちたるが、年のほども、けなげさも、C おことにつゆたがはぬがあやしければ、先づぞ思ふ。彼わが君に仕へて、東にまかる事あれば、我彼をいましむることほかなし。駅路のしげき行き交ひ、馬追ひ、舟長など、すべて心づかひして、あなかしこ、君と親とを忘れてはしたなき争ひなせそと繰り言すなり。おこと親あらば、必ずわが言葉のことけむ。おことこれを思はずや。命あらばイまたこそ会はめとて、また馬にまたがり、かへり見もせず。若き、ただあきれて、「世にはさる人もありけり」とて、馬の<sup>いさ</sup>産見消つまで見送りて去りぬ。「命生きて君に仕ふるものこの翁が賜物なり」と、年経て後語りけるよし。

(中井斎庵『とはずがたり』による。)

(注) 駅路の馬に乗りて——江戸時代、宿駅と宿駅の間を、人や荷をのせて運ぶ馬が備えられており、これを借りたのである。馬追ひは、その馬を進める馬方のこと。

残りの道の替へごと定めて——馬追ひは、一人の土が互いに反対の方角へ向かうので、馬を乗り替えてもらえば、自分たちは無駄なくそれぞれ元の宿駅に帰ると考え、交渉したのである。

おこと——相手をさして言つ。あなた。

馬追ひ、舟長など、すべて心づかひして——当時、馬方や舟長(川を渡す船頭)などには、時に客を恐喝する者がおり、用心が必要とされていた。

問一 傍線部A「つゆたがはぬ」、イ「またこそ会はめ」を口語訳せよ。

問二 傍線部A「いみじのありさまや」とは、誰のどのようなありさまのことか、簡潔に説明せよ。

問三 傍線部B「これ」の示す内容を、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部C「命生きて君に仕ふるもの」の翁が賜物なりについて、「」で「賜物」と述べているのはなぜか、わかりやすく説明せよ。

次の文章を読んで、問い合わせに答えよ。（設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある。）

蕭史者、秦穆公時人也。善吹簫。<sup>A</sup>能致孔雀白鶴於庭。穆公有女、字弄玉、好<sup>b</sup>之。公遂以女妻焉。日教弄玉作鳳鳴、居數年、<sup>B</sup>吹似鳳聲。鳳凰來止其屋。公為作鳳台。夫婦止其上、不<sup>C</sup>下數年。一日、皆隨鳳凰飛去。故秦人為作鳳女祠於雍宮中。時有簫<sup>c</sup>聲而已。

（『列仙伝』による。）

（注）穆公——春秋時代の秦の國の君主。

簫——竹製の管楽器で、笛の一種。

雍宮——秦が雍の地に築いた宮殿。

問一 傍線部A「能致孔雀白鶴於庭」を、わかりやすく口語訳せよ。

問二 傍線部a「女」・c「妻」はどういう意味か、傍線部b「之」は何を指すか、それぞれ簡潔に述べよ。

問三 傍線部B「日教弄玉作鳳鳴」に返り点と送り仮名を施せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問四 傍線部C「時有簫声而已」とはどういうことか、文章全体の内容を踏まえて、わかりやすく説明せよ。